

良田地区



弥生時代～平安時代の
遺構、遺物を発見！！

良田平田遺跡

よしだ ひらた いせき

古代の建物跡を調査中！



古代の地層を掘り下げたところ、掘立柱建物の柱穴が多数見つかりました。柱穴周辺から出土した土器から推測すると、奈良時代の建物跡（約 1300 ～ 1200 年前）と考えられます。現在、それらの位置関係を確認しながら、建物の数や規模について検討しています。

昨年度の調査では平安時代の田畠の管理施設がみつかりました。しかし、いつ頃からそのような性格の建物がこの谷に存在したのかわかっていません。現在調査中の建物跡が、その謎を知る手がかりになると考えています。



掘立柱建物の柱穴跡



柱穴の直径は約 40 ～ 60 センチです。いくつかの柱穴には、直径 20 センチほどの柱が残っていました。

良田中道遺跡

よしだ なかみち いせき

流路の中の一
本橋！？



板をまっすぐに並べて
どうするんだろう？？



流路内の作業風景

弥生時代後期～古墳時代前期頃（約 1800 年前）の大きく蛇行する流路がみつかりました。この流路の中を掘っていくと、板材が顔を出し、さらに板の周囲の土を取り除いていくと、板や棒材がほぼ一直線に並んだ状態でみつかりました。これらは自然に溜まったものではなく、意図的に置かれたものと考えられます。

板材が置かれた当時、流路内はべとべとした土で埋まり、湿地のような状況でした。板材は湿地を渡りやすくするために置かれたものではないでしょうか。



板材の検出状況



第 41 号 2012 年 9 月 24 日

今年、現存する日本最古の歴史書『古事記』が編纂されて 1300 年の年です。『古事記』には、神々の誕生の話や、国生みの話などたくさんの神話が収められています。



黄泉の国のはなし

『古事記』に収められた多くの神話のなかには、死者の世界の話として、亡くなった妻イザナミノミコトを連れ戻そうとしたイザナギノミコトが黄泉の国に赴く物語があります。

物語は、黄泉の国の食べ物を食べてしまったイザナミノミコトが、現世に戻れない話。イザナギノミコトに死後の醜い姿を見られたイザナミノミコトが怒って、夫を追いかけますが、なんとか逃げ切ったイザナギノミコトが黄泉の国と現世の境を大きな石で塞ぎ、妻イザナミノミコトと別離する話などが語られます。



鳥取市の布勢総合運動公園に移築復元された岩美町の小畑（こばたけ）5 号墳。

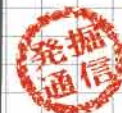
さて、この黄泉の国の物語は、古墳に造られた横穴式石室での行為や体験がもとになっていると考えられます。暗い通路の先にある石室のなかには、黄泉の国の食べ物を盛るためか、土器がたくさん副葬されます。また、石室の入口は大きな石を立てたりして塞ぎます。

鳥取県では横穴式石室は、6 世紀の初めごろから造られます。石室内にはたくさんの土器が副葬されたほか、岩美町高野坂 26 号墳などでは、入口を塞いだ石のすき間からも土器がみつかります。

（財）鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133
鳥取市源太 12 番地
（旧鳥取湖陵高校美和分校内）

TEL：0857-51-7553
FAX：0857-51-7550
メールアドレス：
tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com



発掘現場から空を見上げると、うろこ雲やひつじ雲など秋の雲が浮かび、季節の移りかわりを実感します。
読書の秋、芸術の秋、実りの秋、秋はいろいろなことを楽しむ季節です。9 月も下旬となり発掘調査も後半戦となりました。様々な発見があった発掘調査の実りも楽しんでいただければと思います。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

桂見地区



桂見鍋山遺跡の発掘調査
がはじまりました！

桂見鍋山遺跡

かつらみなべやまいせき



9月5日から作業を開始しました

いよいよ、桂見鍋山遺跡の発掘調査がはじまりました。これから3ヶ月間かけてこの遺跡の時期や性格を明らかにしていきます。

この遺跡では、試掘調査が行われていますが、本格的な調査は今回が初めてです。そのため詳しいことはまだわかっていません。

そこで今回の調査でどんなものがみつかる可能性があるのか、周辺の遺跡を手がかりとしながら、少し考えてみましょう。

桂見鍋山遺跡は湖山池の南岸、東桂見地区の小さな谷間にあります。谷奥の尾根上には、因幡国で最大規模の古墳である栢間1号墳（全長92メートルの前方後円墳）があります。

また、その北側には中世の山城、鍋山城があります。

いずれも発掘調査は行われていませんが、今回の桂見鍋山遺跡の調査でこれらの遺跡に関連するものがみつかるかもしれません。



調査地の谷奥にある遺跡（北西から）



調査地の湖山池側にある遺跡（東南から）

また、この谷の入口にあたる現在の県民体育館の周辺から「とっとり出合いの森」までの一帯には、当財団が調査中の東桂見遺跡があります。

この遺跡では、古墳時代の田んぼが見つかることを前号でご紹介しました。また、過去の調査でも田下駄が多量に出土しています。

桂見鍋山遺跡も同じ立地条件にありますので、古墳時代頃の水田跡が見つかるかもしれません。

高住地区

高住井手添遺跡

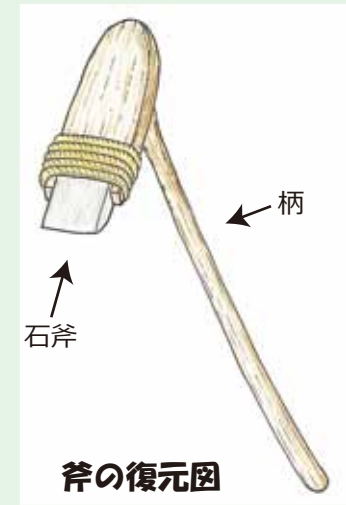
たかすみいでぞえいせき



木製品の発掘風景

弥生時代の木製品が出土！

弥生時代中期（約2100年前）の溝に造られた堰のなかから木製品が出土しました。農具や容器など、いろいろな種類の木の道具がみつかっています。



変わった形をしているこの木製品は斧の柄です。

木が枝分かれする部分をうまく利用して作られています。細い枝の部分が柄で、幹から削り出した部分が斧の刃を取り付ける台座になります。

台座の端には、斧の刃をはめこむための窪みがあります。その形から推定すると、ここには平たい石斧が取り付けられていたようです。



農作業や土木工事に欠かせない道具も木で作られています。これは鋤という、今のスコップにあたる道具です。柄の部分は別に作られています。形が整っていないので、作りかけのもののようです。



右の木製品は破片ですが、お風呂で使う片手桶のような形をした容器の柄の部分と考えています。

とても複雑な形を1本の木から削り出して作っています。表面の仕上げも丁寧で、当時の木工技術の高さがうかがえます。

